

3 避難行動要支援者の特徴とニーズ

区 分		特 徴	災害時のニーズ
高齢者	一人暮らし 高齢者等	・緊急事態等の覚知が遅れる場合がある	・迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認及び状況把握等が必要となる。
	(寝たきり) 要介護高齢者	・食事、排泄、衣服の着脱、入浴などの日常生活をするうえで他人の介助が必要であり、自力で移動できない。	・安否確認、生活状況の確認が必要。 ・避難する際は、車椅子、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。
	認知症高齢者	・記憶が抜け落ちたり、幻覚が現れたり、徘徊するなど、自分の状況を伝えたり、自分で判断し、行動することが困難なことがある。	・安否確認、状況把握、避難誘導等の援助が必要となる。
身体障害者	視覚障害者	・視覚による覚知が不可能な場合や、置かれた状況がわからず、瞬時に行動をとることが困難だったり、他の人がとっている応急対策などがわからない場合が多い。	・音声による情報伝達や状況説明が必要であり、介助者がいないと避難できないため、避難誘導等の援助が必要となる。
	聴覚障害者	・音声による避難・誘導の指示が認識できない。補聴器を使用する人もいるが、コミュニケーション手段としては、手話、筆記等である。	・補聴器の使用や手話、文字、絵図等を活用した情報伝達及び状況説明が必要となる。
	言語障害者	・自分の状況等を伝える際の音声による会話が困難である。	・手話、筆談等によって状況を把握することが必要になる。
	肢体不自由者	・体幹障害や足が不自由な場合、自力歩行や素早い避難行動が困難なことが多い。	・歩行の補助や車椅子等の補助器具が必要となる。
	内部障害者	・ほとんどの人が自力歩行でき、一般の人と変わりなく見えることが多いが、補助器具や薬の投与、通院による治療（透析等）が必要である。	・避難所に酸素ボンベが持ち込めないなどの問題がある。 ・補助器具や薬の投与、通院による治療(透析等)が必要となる。

区 分	特 徴	災害時のニーズ
知的障害者	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態等の認識が不十分な場合や、環境の変化による精神的な動揺が見られる場合があり、自分の状況を説明できない人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを落ち着かせながら安全な場所へ誘導したり、生活行動を支援するなどが必要となる。
精神障害者	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人は自分で判断し、行動できる。適切な治療と服薬により、症状をコントロールできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・精神的動揺が激しくなる場合があるので、気持ちを落ち着かせ、適切な治療と服薬を継続することで症状をコントロールする必要がある。 ・自ら薬の種類を把握しておくとともに、医療機関による支援が必要となる。

【災害時要援護者対策ガイドライン 日本赤十字社 平成18年3月 より抜粋】